

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0770102499 | | |
| 法人名 | 医療法人 社団 敬愛会 | | |
| 事業所名 | 敬愛シニアガーデン桜堤 さくら | | |
| 所在地 | 福島市八木田字井戸上50-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年12月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年4月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8043 福島県福島市中町4-20 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年2月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

皆でパッチワークでソファカバーを作成するなど、一つの作品完成に向けて取り組んでいる。外食やドライブで外出する機会を多く設けており、できるだけ毎月外出するようにしている。季節に応じた行事食を提供して季節感を感じてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 事業所は医療法人が運営しており、利用者の健康管理に十分配慮している。月2回の往診があり、利用者の急変時にも随時対応しており、常に適切な医療を受けられる体制が整っており、利用者、家族の安心に繋がっている。
 2 職員の異動が少なく、管理者を中心に職員と利用者間のコミュニケーションが円滑に図られており、利用者の表情が穏やかで明るく、笑い声の多い楽しい雰囲気のある事業所である。
 3 本事業所は平屋建てで2ユニットが連結しており、非常口への動線も直線であり災害時の避難には有効である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を事務室に掲示して、職員相互間の共有に努めている。 | 理念には「地域の人々と共に家庭的な環境のもとで四季を楽しめる生活の支援」を明記しており、さらに毎年ユニットごとに目標を定めている。常に全職員が共通の認識でサービスに努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会主催の「ふれあい広場」に参加したり、積極的なボランティアの受け入れを行っている。 | 地区のふれあい広場への参加や中学生の職場体験の受入、民話、ピアノ演奏・紙芝居等のボランティアの受入等広く地域と交流している。特に近隣保育園児との交流は恒例となっており、利用者の楽しみとなっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議に地域の方へ出席を求めたり、学生の職場体験学習を通じ、若い人達への認知症理解に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催している運営推進会議中で行事報告・事故報告をしている。投書箱を開封して改善に向けて話し合っている。 | 運営推進会議の内容は事業所の状況、行事、事故報告、災害対策、投書箱の開封による苦情等多岐にわたっており、委員からは意見や提言も多く事業運営やサービス向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議には地域包括支援センターから出席してもらっている。 | 事業所の状況報告や利用者の相談等を通して、市の担当者とは常に連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全ての職員が身体拘束を行わない事を意識して介護している。転倒防止の為、家族の理解を得てベッド柵を利用している利用者はいる。 | 全職員が身体拘束の弊害を認識しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。外出希望者には職員の見守りで対応している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止関連の研修会に参加している。言葉による虐待とならないよう意識し職員がお互いに気を付けている。また、身体的虐待が行われていない事を確認する意味で、入浴時にその行為の形跡がないことを確認している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度の研修会をしている。過去に利用した方については関係者との話し合いの機会を持つことで制度を活用でき、今後も適切に支援できるように努めていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は重要事項説明書を読み合わせて十分な説明を行っている。また、内容を改定する時は運営推進会議等で説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に投書箱を設置して運営推進会議の度に参加者の前で開けて話し合っている。家族との会話の中で聞きやすい、又は話しやすい雰囲気作りに気を使っている。 | 面会時や利用者の状況報告の際に家族の意向把握に努めている。また、運営推進会議には家族の出席も多く、会議では家族からの意見や提言もあり、全職員で話し合い事業所運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議、ユニット会議の中で職員から出た意見・提案を反映できるよう努めている。 | 全体会議やユニット会議において職員の意見を聞く機会を設けている。提案された意見は事業所運営に反映させている。また、職員間の連携が良く、管理者にいつでも何でも話せる体制となっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々の経験を活かし、働きやすい職場作りを心掛けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修には積極的に参加し、研修の報告会を行う事で介護技術や知識の向上に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福島県グループホーム連絡協議会に加盟し会議・研修にはその都度出席している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にできるだけ本人に見学してもらい、納得の上で入居してもらう事になっている。初期には特に関わりを多くし、混乱を最小限にすることで馴染んで頂けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申込の段階から家族のニーズや希望・悩みを聞き、入居後も時間を取ることで不安が解消され信頼関係が築けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 訪問調査の情報を元に、現在の症状などで必要としている事柄を見極めた上で支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事作りを一緒に行い、味付けや調理方法を利用者に教わる事を職員は大切にしている。一緒に食事をし、共同生活する関係作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話、月1回の生活の様子を記載した手紙などで家族との連絡を密にして情報を共有し、本人にとって何が必要か話し合い、協力を求めることで共に支えられるような関係作りに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親族や馴染みの方の面会を通じて今までの関係が途切れる事が無いように努めている。 | 利用者の友人・教え子・趣味の仲間等の訪問があり、これまでの関係が継続できるよう支援している。家族の協力を得てなじみの理美容院、商店等の利用を継続している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う入居者同士が話せる様、話題を提供したり居室に案内して会話ができる環境を作っている。入居者同士の問題が発生しそうな時は職員がさりげなく間に入り、問題が悪化しないように注意している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後もこれまでの関係を大切に、相談があればいつでも対応すると伝えている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式により本人の思いを把握し、ケアプラン作成時にはその都度本人に意向を聞いている。 意思表示ができない場合にはご家族の意向を合わせ利用者本位に検討している。 | 開設時よりセンター方式を活用しており、利用者の生活環境や暮らしの情報、心身の状況はもとより、意向の把握に努めている。意向確認が困難な利用者は家族から把握し、利用者本位のケアに努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日々の会話の中でこれまでの生活歴・生活環境の把握に努めている。 また、家族の面会時には本人から得られない情報を聞き取るようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの得意な事が発揮できる場を提供している。バイタルチェックや表情の観察をして、心身状態の把握をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族の面会時に状況の説明をして利用者や家族の要望を取り入れてスタッフ間での話し合いを行い、現状に即した介護計画の作成をしている。又、退院後の状況に合わせて見直し・変更を行っている。 | 利用者・家族の希望、利用者の身体状況を踏まえ、関係者で話し合い介護計画を作成している。また、計画に基づいた個別記録をもとに定期的にモニタリングを実施し、利用者の現状に即したサービス計画の見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 1日の介護記録に利用者の様子や気づき・対応を記載し、申し送りノートを活用して情報共有に努めケアプランに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の要望に合わせ、出張美容・訪問マッサージなどを取り入れ、柔軟な支援に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のボランティアの協力で民話・紙芝居、ピアノや合唱など楽しんでいる。又、地域の行事に参加したり保育園児の訪問、中学生の体験学習の受け入れを行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族の希望があれば、かかりつけ医に継続的な医療を受けてもらっている。協力医療機関は24時間対応可能で、月2回の往診を行っている。 | かかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族の対応を基本としているが、利用者の状況によっては職員も同伴している。協力医療機関から往診があるので、かかりつけ医を変更した利用者もいる。受診結果は家族と情報の共有をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 身体状況の変化を見逃すことのないよう小さな気づきも主治医に報告するよう努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には本人に関する情報提供を行っている。病院関係者との情報交換を密にして早期退院に向け努力している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重症化した場合、終末期のあり方について家族との話し合いができることの説明を行っている。 | 「看取りに関する指針」を策定し、利用時に家族に説明の上「看取り介護についての同意書」を締結している。緊急時には家族の意向を再確認し、医師の指示のもと柔軟に対応している。開所当初からターミナルケアを実践している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故発生時の対応マニュアルがある。定期的に勉強会を行い、様々な症状に備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月1回、避難訓練を実施している。火災、地震、水害などの発生時には地域の消防団に協力してもらえるように話し合いがなされている。 | 消防署立会いの総合防災訓練のほかに事業所として毎月独自の訓練(日中・夜間を想定、通報訓練、消火訓練)等を実施している。非常時の食料品等は備蓄している。 | さまざまな災害を想定し、全職員が非常時に利用者を安全に的確に避難誘導が出来るように訓練を重ねてほしい。災害時には地域住民の協力が不可欠であるので、協力体制が得られるよう努めて欲しい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシー保護について理解し、介護記録はスタッフルームにて管理している。 利用者に対する言葉遣いに気をつけ、職員同士でも注意している。 | 全職員が利用者の尊厳を損ねない対応に努めており、利用者一人ひとりを尊重し日々のケアにあたっている。プライバシーの保護については十分理解し、利用者の写真掲載同意書等も取り交わしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりする場面を日常的に作り、言いやすい関係を作っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の一人ひとりのペースや望んでいる思いを大切に支援し、利用者の表情を見ながら対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | カットやカラーの希望を聞き、出張美容室を利用している。洋服へのこだわりや化粧品については、その人らしいお洒落が楽しめるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 野菜切りや盛りつけなどを一緒に行っている。 一緒に食事も摂り、おかずの話から話題を広げて和やかに過ごせるようにしてる。 | 献立は法人の管理栄養士が作成しているが行事食や利用者の希望によって、臨機応変に変更している。利用者と職員がともに食事の準備や片付け等をしており、職員も一緒に食卓を囲み、会話をしながら食事を楽しんでいる。また、外食の機会も多く計画し実践している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日、食事量や水分摂取量をチェックし、水分は1000ml/日は確保できるよう好みの飲み物も取り入れている。 一人ひとりの状態に合わせて固い物を刻んだりミキサーにかけて提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 朝・晩、うがいができるようにお茶を準備している。 就寝前には義歯を預かり、洗浄をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 本人の体調やADLを把握し、利用者の状態に合わせてトイレにて排泄していただけるよう排泄のサインを見逃さないように努めている。 | 利用者の日々の体調変化や個々の排泄パターンにも注意し、自然排泄につながるよう支援している。退院後おむつ利用であった利用者も適切な誘導により、トイレでの排泄に改善した例も多い。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘により、食欲低下・情緒不安定になることを理解し毎日の食事量や言動などに注意している。 体操や歩行訓練には参加して頂き、腸のぜん動運動を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入居者様からの希望により順番を決め、不満が出ないように入浴していただいている。 | 利用者の希望により入浴できるよう支援している。週2回以上の入浴を基本に支援しており、季節風呂としてゆず・菖蒲湯等も楽しんでいる。入浴拒否者には担当者や時刻を変え気分転換を図りながら支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々のペースに合った入眠、起床、昼寝をしており、好みの場所で休息できるようにソファやコタツを設置している。眠れない人には温かい飲み物を出したり、傾聴に心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人の服薬が一目で分かるように介護記録の後ろに薬の情報をファイルしている。 与薬については職員でダブルチェックをして誤薬にならないよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 調理、洗濯物の整理、トレー拭きやリネン交換など役割を持ってもらい張り合いが持てるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 希望に沿ってドライブや買い物、散歩・外食の支援をしている。 また、家族の協力にて日帰りバス旅行を行っている。 | 好天時には近隣の桜並木通りや近隣の公園等の散歩を楽しんでいる。さらに毎月定期的にドライブ(紅葉狩り・買い物ツアー等)を計画し実践している。また、地域のふれあい広場やふらっと茶の間という地域の集いに出かけ、幼稚園児や住民と交流している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理できる人には、本人の希望に応じて三千元～五千元程度の金額を所持してもらい、好みの物を購入する機会を持っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族などへの電話の希望があれば、その都度電話を掛けてもらっている。 手紙などは自由に差し出しができる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 空気清浄機や加湿器を設置すると共に、室温のこまめな管理を行い、快適な生活ができるようにしている。 また、季節ごとの絵や飾りつけを行っている。 | 共用空間は施設中央に設置され、椅子と机のエリアと段差の無い畳にコタツのエリアがあり、利用者は思い思いの場所で自由に過ごしている。壁には季節感のある飾り・利用者の作品等が展示されている。空調等も適切に配慮されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間はソファで仕切り、一人になれたりコタツで少人数で過ごせるように配置している。 廊下には小鳥を飼い、ソファを置くことで自然に人が集まるようになっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている | 各居室にはベッドとクローゼットが設置されているが、利用者の使い慣れた家具や寝具を持ち込み、暮らしやすい環境を整えている。 個人の思い出の写真や手織りの人形などを飾っている。 | 家族の協力を得て、利用者の使い慣れた家具等を自由に持ち込み、利用者が安心して過ごせるように配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 車椅子用の洗面台を設置したり、リビング・廊下・トイレ・浴室などに手すりを取り付けてある。 トイレの場所は分かりやすいように張り紙を貼って目立つようにしている。 | | |